

# 「谷根千」を支えるいくつもの活動の軌跡

中島直人

## 地域雑誌『谷根千』

1984年10月に地域雑誌『谷中・根津・千駄木』(通称『谷根千』)が地元に住む3人の若い主婦によって創刊された。創刊に当たっての口上に「懐古趣味ではなく、古き良きものを生かしながら、暮らすのが楽しい、生きのいい町として発展するのに少しでもお役に立てたらと思っています」(『谷中・根津・千駄木』2号)とあるように、当初から生活者の視点からのまちづくりへの展開を念頭に置いた雑誌づくりを目指した。明治末で途絶えていたがこの年から再興された谷中三崎坂の菊まつりを特集した創刊号以降、毎号の特集や連載で「谷根千」<sup>1</sup>の地域文化を次々と発掘していく。

主婦の手による地域雑誌という珍しさとともに、江戸東京ブームとも呼ばれた東京のまちの歴史への関心の高まりを背景として、『谷根千』は創刊当初から高い評価を獲得し、「谷根千」のまちも知名度を急速に上げていった。しかし、バブル期に突入して地価が高騰し、次々と古い建物が壊され、風景が改変されていく時代でもあった。『谷根千』の発行元である谷根千工房は、歴史的建造物をはじめとする文化遺産の保存運動にも、関連する特集の企画、誌面の提供、パンフレットや報告書の作成などのかたちで積極的に協力し、いくつかを成功に導いた。

『谷根千』は季刊のベースで現在も刊行されているが、発行部数は最盛期の半分以下に落ちている。しかし雑誌としての魅力が低下したわけではない。地域文化を丹念に掘り起こし、内外に積極的にアピールしていくという『谷根千』

谷中芸工展の様子（出典：谷中芸工展2007：<http://www.geikoten.net/>）

が主導した1つの時代が終わり、後述するように、そして掘り起こされた地域文化を守り育てるまちづくりが日常的に実践されるような時代に移行したということであろう。地域文化の掘り起こしからまちづくりへという当初に目指した役割を果たした『谷根千』は、2009年春に刊行予定の93号での終刊が決まっている。

## 谷中学校の活動

『谷根千』草創期の1986年、地元の寺院の住職や近接する東京藝術大学の研究者や学生を中心として上野・谷根千研究会が設立された。文化遺産の保存運動の経験から得た、失われやすい日常的風景や文化はあらかじめ記録しておく必要があるとの問題意識に基づいて、「谷根千」のまちの「親しまれる環境調査」を開始した。谷根千工房をはじめ地元で活動している団体や郷土史家も多数加わり、1989年に3年間の成果を最終報告書にまとめた。そして調査が終了し、研究会が解散した後にも、調査成果を地域に還元し、まちづくりを支援していくため、この調査に関わっていた学生たちを中心として有志団体・谷中学校が結成されたのである。

谷中学校は公共施設のデザインアドバイス、建て替え相談などから活動を開始して、地元との関係の構築を模索していった。1993年からは谷中で住みや関わりのある人たちのアート作品を町中に展示する谷中芸工展を催し、新たなネットワークを生み出していった。谷中学校の活動は、

### 1. 地域資源の再発見（谷中芸工展など）



三崎坂上マンション。建物の高さや意匠の面で隣接する寺院群との調和が図られた

2. まちへの提案（歴史的建造物の保存活用の提案など）  
3. まちつながる（子供たちとの環境学習など）  
の3つの軸に整理されていく広がりを次第に獲得していったのである。

## マンション見直し運動から地域主導のまちづくりへ

1998年、寺町の雰囲気が最も強く感じられる谷中三崎坂に、9階建ての大規模マンション建設の計画が発表された。この計画に対し、見直しを求める運動が地元内会を中心に発起され、最終的には地域住民、業者がともに納得する設計変更がなされた。そしてこの運動をきっかけとして、2000年3月には地域自身が責任を持って地域の景観や環境、地域社会そのものを守り育てていくことを誓った「谷中・上野桜木地区まちづくり憲章」、2000年12月には谷中三崎坂の良好かつ固有の景観と環境を守るために、その景観と環境を乱す建築物の建設を規制し、寺町の環境と住環境との調和を図り、未来に継承発展させていくことを目的として、「谷中三崎坂建築協定」が締結されたのである。

また、まちづくり憲章を受けて、2000年7月には谷中のまちづくりについて地域提言を行うことを目的とした「谷中地区まちづくり協議会」が設立された。協議会は、防災まちづくりの検討、総合的まちづくりのための調査実施、都市計画道路の見直し検討などを、台東区と協働し、谷中学校やその他各大学と連携しながら、実施してきている。

マンション見直し運動に住民運動を支援する専門家として関与して、代替案の作成などに大きく貢献した谷中学校も、自らの位置づけをまちづくりへの実験的な場、さまざまな人が立場を超えて出会い、意思疎通できる場であると再整理した上で、実験段階を越えて社会的な責任を持って進めていく活動については別途組織を立ち上げることにした。2003年末には地域の歴史ある生活文化を守り育てる「NPOたいとう歴史都市研究会」と地域住民のまちづくり活動や地域共生型の土地活用を支援する「NPOひとまちCDC」の2つのNPOが谷中学校を母体に設立され、谷中、そして「谷根

1984	地域雑誌『谷中・根津・千駄木』(通称『谷根千』)創刊
1986	上野・谷根千研究会による「親しまれる環境調査」開始
1989	上野・谷根千研究会参加メンバーにより谷中学校設立
1998	谷中三崎坂マンション問題が起きる
2000	谷中・上野桜木地区まちづくり憲章、谷中三崎坂建築協定締結。谷中地区まちづくり協議会設立
2003	NPOたいとう歴史都市研究会、NPOひとまちCDC設立

千)地域におけるまちづくりを支援している。

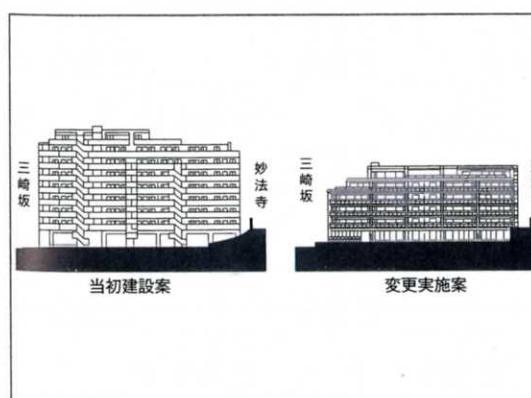
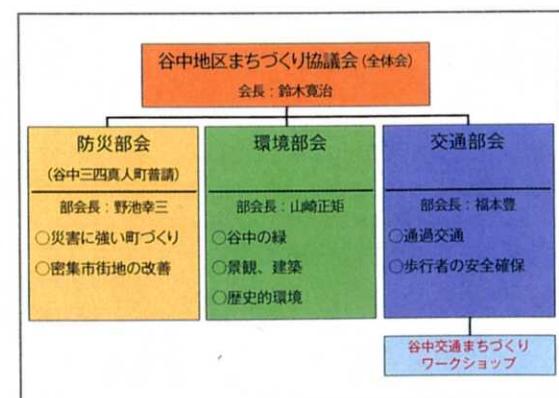
1980年代に地域文化の掘り起こしから始まった諸活動は、20年をかけてこうしたまちづくりの体制をかたちづくるに至ったのである。ここに至るまでの成長、成熟に必要な時間、段階を含めて、谷中、根津、千駄木からまちを生かし続けるための丹念な手法を学び取ることができるだろう。

## 注

\*1「谷根千」とは、寺町の谷中、門前町の根津、屋敷町の千駄木という3つの異なる出自・性格のまちの総称で、1984年に創刊された地域雑誌『谷中・根津・千駄木』の略称を起源とする比較的新しい地域名である。

## 参考文献

- 森まゆみ「『谷根千』の冒険」筑摩書房、2002年
- 池田祥「谷中学校の活動の展開に関する研究」(東京大学工学部都市工学科卒業論文)、2003年
- 椎原晶子「谷中のまちづくりの歩み20年—谷中学校からふたつのNPO誕生へ」「季刊まちづくり6号」2005年

三崎坂上マンション見直し運動の成果（谷中の町を考える会：<http://yanaka.site.ne.jp/>をもとに作成）谷中まちづくり協議会の体制（谷中交通まちづくりワークショップ：<http://yanaka.fc2web.com/>をもとに作成）